

市民活動活性化モデル事業(市民ベンチャー事業)実施報告

(1) 実施団体

特定非営利法人 伊万里はちがめプラン
所在地：佐賀県伊万里市大坪町狩立(今岳)乙

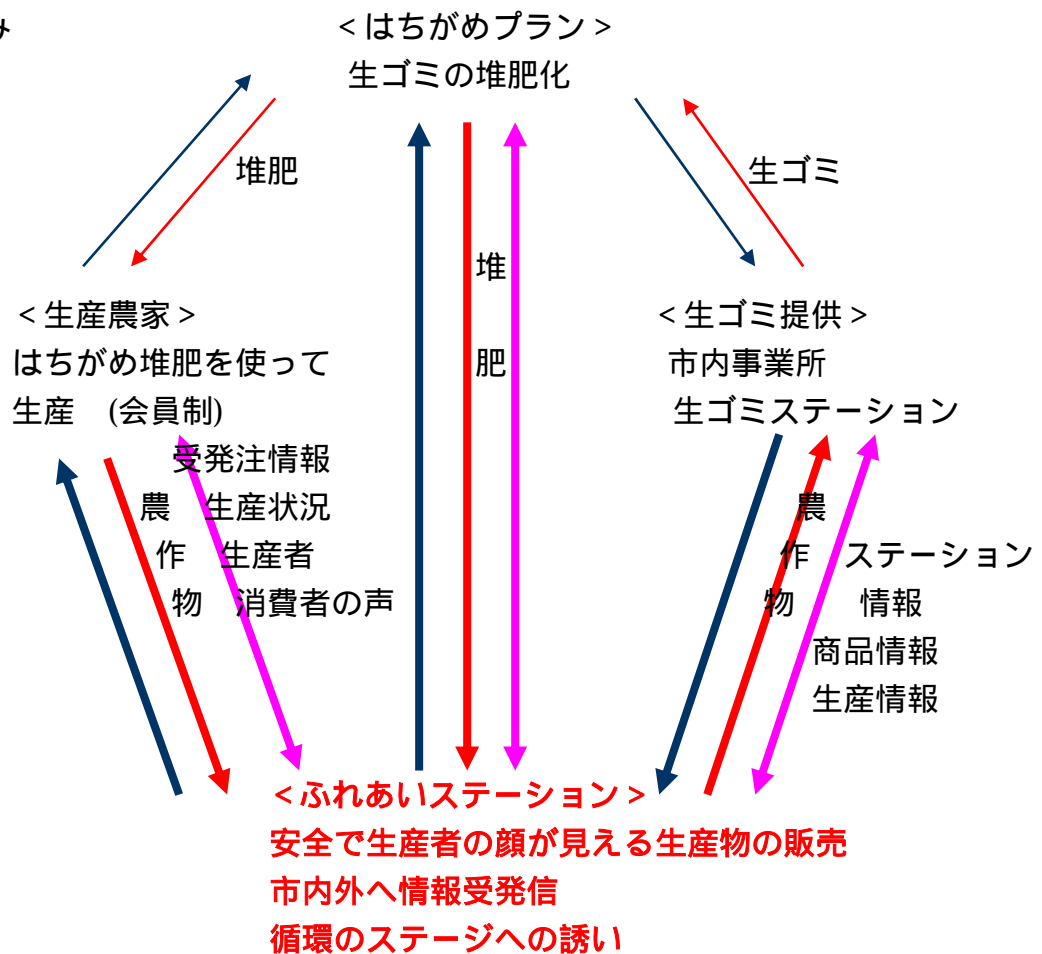
(2) 事業の概要

はちがめふれあいステーションが設置されることによって、循環による地産地消が可能となる流通が出来、この流通から産み出される高い安全性によって安心を与えることができる。

従来の流通からは考えられない、また得ることができなかった情報が、それぞれの活動から発信される情報によって、つまり誰がどのような状態で生ゴミを出し、その生ゴミをどのような方法で堆肥化し、その堆肥を誰が、どのようなところで、どのような方法で生産し、その生産されたものがどのような形で手に入れることができるのかという情報が、目に見える形として得ることができる。

この循環による地産地消をビジネスモデルとした、はちがめふれあいステーションの設置が可能であるか試みた。

(2) 事業の仕組み



(4) IT活用のポイント

取り組みの内容、商品情報がオープンに受発信できるようにホームページを作成しリアルタイムでふれあいステーションの状況がわかるような環境作りを考えた。

四半期ごとに、生産者、消費者である生ゴミステーションのメンバー、ふれあいステーション運営管理者及びはちがめプラン代表者との懇談会を行い、生産計画や作付け情報、発育情報などを盛り込んだ生産者シートや生ゴミステーション活動報告ふれあいステーション活動報告とイベントなどの計画、はちがめ堆肥生産状況、視察状況などを懇談会形式で報告しあい、そのつど、課題や問題点などオープンに話し、この内容をホームページ使い生産情報、生ゴミステーション情報、はちがめプラン情報を発信する。

(5) 女性高齢者の役割

はちがめ堆肥の材料となる、生ごみの分別提供、その堆肥を使って生産された農作物の活用(消費)及びその情報発信が当事業における女性の役割となる。また、高齢者の役割としては、はちがめ堆肥を使った農作物の生産と、その農作物を使った加工食品の生産を行う。

(6) 事業の成果

ふれあいステーションを設置するに当たり、次のことをテーマとして実験的に、はちがめ堆肥でできた農作物の販売を試みた。

実際はちがめ堆肥を使った農作物が毎日の需要としてあるのか。

需要を満たすだけの生産者と耕地面積確保できるのか。

その耕地面積を補うだけの堆肥があるのか生産できているのか、又は生産を高めることができるのか。

その結果、はちがめ堆肥を使った農作物の需要として非常に高く、ふれあいステーションでのビジネスとしての取り組みが可能であることがわかった。

生産者と耕地面積はあるが、需要(消費者が望んでいる「安全で安心」)を満たすレベル(有機栽培)において厳しい状態にあることがわかった。

現在の堆肥の生産量では大変厳しく、早急な対策が必要となった。

堆肥生産量 日量 600 kg → 1200 kg 生ゴミステーション参加世帯数 100 世帯 → 500 世帯

協力生産者 47 名 耕作面積 田 141 反 畑 70,5 反 予想される農作物売上高 / 月 1,480 千円

(7) 来年度以降の事業展開

基本方針

- ・地域内において地産地消を全面に出した新たな流通の拠点として確立させる
- ・循環の情報発信の拠点として確立する
- ・循環に関する各種支援活動を行う。

具体的事業

学校給食への参入。 ふれあいステーションにおいて地産地消の独自化を図り、地域内外に新たな顧客を生み出す。 生産者、消費者懇談会の定例的な開催とその情報発信。 はちがめふれあいステーションでコンサルティング事業を開始する。

組織体制としては「はちがめふれあい倶楽部(仮称)」を組織し、16年度末をめどに法人化(有限会社)を図る。